

ボズウェル伯

- 1 なんと悲しいことだ 不実なスコットランドよ
汚い陰謀をはたらくとは
かつてないほどの立派な王様を
闇夜にまぎれて手にかけるとは
- 2 フランス王妃様はダーニリ卿に手紙を書き
ハート形の指輪で印を押した
スコットランドにいらつしやい
結婚して王様にしてあげると
- 3 王様になれるのは嬉しいこと
女王様の婿になれるのは
だがあなた方もご存知の通り
人とは金には弱いもの
- 4 宮殿には一人のイタリア人
誰よりも愛された男
その名をデイヴィッド卿といい
女王様お気に入りの秘書官であった
- 5 仮にも王様が席を立つたら
すぐにも玉座に坐ろうとする
厚かましいほどの振舞いぶり
王様がその場にいたというのに
- 6 貴族たちの腸はらわたは煮えくり返り
すぐにデイヴィッドと口論となつた
その結果はと言えば
- 7 目の前でデイヴィッドが惨殺され
女王様は彼のために頬をぬらし
十二ヵ月と一日もの間
- 8 貴族たちの腸はらわたは煮えくり返り
憤つてこのように誓いを立てた
「女王の秘書官殺害の罪で
王を即刻処刑すべき」と
- 9 やつらは王様の部屋に火薬をまき
緑のイグサでごまかした
その夜 この裏切り者たちは

立派な王様への謀反を図ったのだ

10 王様はベッドへと向かつた

休みたいと思つたから

王様が眠りにつくとすぐに

部屋は瞬く間に火の海と化した

11 即座に起き上がり 窓を破るが

高さはざつと三十フィート

ボズウェル伯が城壁の下で

ひそかに観察しながら声をかけた

「そこに誰かいるのか

いるならこの呼びかけに応えよ」

12 「我が伯父は英國王ヘンリーエル八世だ

彼のためにどうか助けてくれ

ああ ボズウェル伯か よく知つた仲だ

頼む 哀れと思って助けてくれ」

「哀れとなら思つてやろう

好意と言えるぐらいのことはしてやろう

お前が女王の秘書官を手にかけ

亡き者にした同じ程度のものならば」

13 やつらは王様を連れて広間も塔も

高くそびえる城も塔も通り過ぎ

庭園を抜けて果樹園に入ると

王様を梨の木に吊して殺した

14 スコットランドの摂政に知らせが届いた

善良な王様が殺されたという知らせ

彼はきびしくも女王様を追放し

女王様は国にはとどまれぬ身に

そのままイングランドへ逃亡し

スコットランドのことはお構いなし

イングランド女王様の恩恵をうけ

今もイングランドに居残つたまま

16

15

14

13

12